

浄願寺だより

H30 夏 No.10

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめお知らせしようと思ひます。夏・冬二回の発行を予定しています。

平成三十年七月二十一日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

けし 芥子の種

七月豪雨。かけがえのない多くの命が奪われてしまいました。愛するものと別れる苦しみに今昔はありません。子供の頃よく聞いた仏典のお話を思い出します。

あるインドの貧しい村に、ゴータミーという女がいました。ゴータミーには三つになつたばかりの男の子がいましたが、かなしいことにほんの数日の患いで亡くなつてしまつたのです。

ゴータミーの嘆きは、それは激しいものでした。ゴータミーは子どもがなきがらを誰にも触れさせようともしません。村人が、それでもお葬式を出してやらないと、と言っても「この子はまだ生きています。」と言って追ひ返してしまいます。

見かねた一人の村人が、「それなら村のはずれに、お釈迦さまという尊い方がおられるから、相談してごらん。その子を生きた返らせる方法を、ご存知かもしれない。」と言ひました。

ゴータミーは藁をもすがらうような患いで、お釈迦さまをたずねました。

その時お釈迦さまは、大勢のお弟子の前でお説法をしておられましたが、お釈迦さまは、髪を振り乱し子どものなきがらを抱いて目を血走らせているゴータミーの姿を見つけ、こちへ来なさい、とやさしく手招きなさいました。ゴータミーは言われるままにお釈迦さまの前に進み出て、すがらうにして言ひました。

「この子を生きた返らせる方法を教えてください！」
お釈迦さまは一瞬にして、ゴータミーの嘆きと悲しみの深さをお察しになりました。そしてこのようにおっしゃつたのです。

「よろしい、ではその子を生きた返せる方法を教えてあげよう。まず、この村のどこから、芥子の種を一粒もらつてきておくれ。ただし、その芥子の種はこれまで一度も身内のもを亡くした事の無い家からもらつてこなければならぬよ。」

ゴータミーは喜びました。「はい！すぐに芥子の種をもらつて参ります！」
「そう言つて、村に駆け戻つて行きました。」

ゴータミーは最初に目に付いた家の戸を叩いて大声で言ひました。
「すみません、芥子の種を分けてください。」

すると、中から主人が出てきて、「いいですよ、どれ程必要ですか？」と言ひました。

「たつた一粒でいいのです。でも念のためにお聞きますが、このお家ではこれまでに亡くなつた人はいないでしょうね？」

すると主人は首を振りながら、「亡くなつた人がいないどころか、一週間前に母親を亡くして、まだ悲しみが癒えていません。」と答へました。

「どうですか？それでは芥子の種はいただけません。」

そういつてゴータミーは次の家の戸を叩きました。しかし、その家でも、昔、幼い子供が亡くなつていました。

次の家も次の家もゴータミーは必死になつて尋ねて回りましたが、どの家もどの家も、親を亡くし、子を亡くし、兄弟を亡くした悲しみにひっそりと耐えている家ばかりでした。村中の家を回りましたが、これまで一人も亡くなつた人のいない家はとうとう一軒も見つかりませんでした。

疲れ果て道端にへたり込んでしまつたゴータミーのそばにお釈迦さまがやつてこられました。ゴータミーはお釈迦さまを見上げると、「悲しみに 耐えているのが私だけではないということがわかりました。これから、あの子を吊つてやろうと思ひます。」と言ひました。
お釈迦さまは、静かにうなづかれ「悲しみのむこうに、いつも光っているものに、目を向けて生きる。ことだよ」そうやさしいお声でおっしゃいました。

参考 花岡大学「白けしのたね」

平成三十年七月 住職

新墓地の造成が 進んでいます

上篠尾 太田地で新しい墓地の造成工事が進んでいます。

現在の上篠尾の墓地のすぐ横に土地の寄進を受け、全部で60区画程度の新規墓地の造成を予定しています。完成は年内を予定しており、水道を備え、駐車場からバリアフリーで安全に参拝できるように整備します。

墓の新設、または移転をお考えの方は、住職にご相談ください。

永代供養墓も新墓地に移転し、よりお参りしやすくなります。

淑徳高校方面⇄浄願寺方面



篠尾新墓地造成予定地

お寺の掲示板より

仏は
我が罪と
責めることなく
その悲しみを
抱きとめるなり

字・関秀實

門徒の広場

WEB版では
門徒の広場は
ご覧いただけません。



浄願寺の

永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。
永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。

浄願寺永代供養墓は車道に面してお参りのしやすいお墓です。
詳しくは浄願寺ホームページか住職までおたずねください。

編集後記

集中豪雨の中、七月五日・六日と本願寺念仏奉仕に参加しました。貸し切りバスでの帰り道、福知山に向かうすべての道が通行止めになっており、京都から出る事すら出来ません。最悪のケース、車中泊も覚悟しました。しかし、皆さんの情報収集力と忍耐力、運転してくださったご門徒のNさんの機転のおかげで、七時間かかりましたが、なんとかみな無事に家に送り届けていただきました。Nさん、雨の中、長時間の運転お疲れ様でした。感謝、感謝です。

浄土真宗本願寺派
篠尾山 浄願寺

〒620-0925

福知山市上篠尾725

電話0773-22-5280

email jyouganjiweb@gmail.com

http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法

浄願寺だよりはインターネットでもご覧になれます。

浄願寺ホームページ

http://www.jyouganji.com